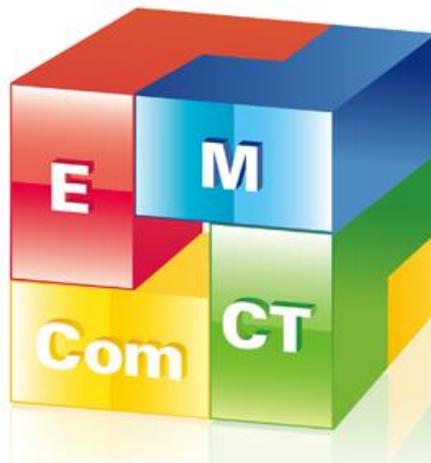


2020年3月期

第2四半期連結決算説明資料

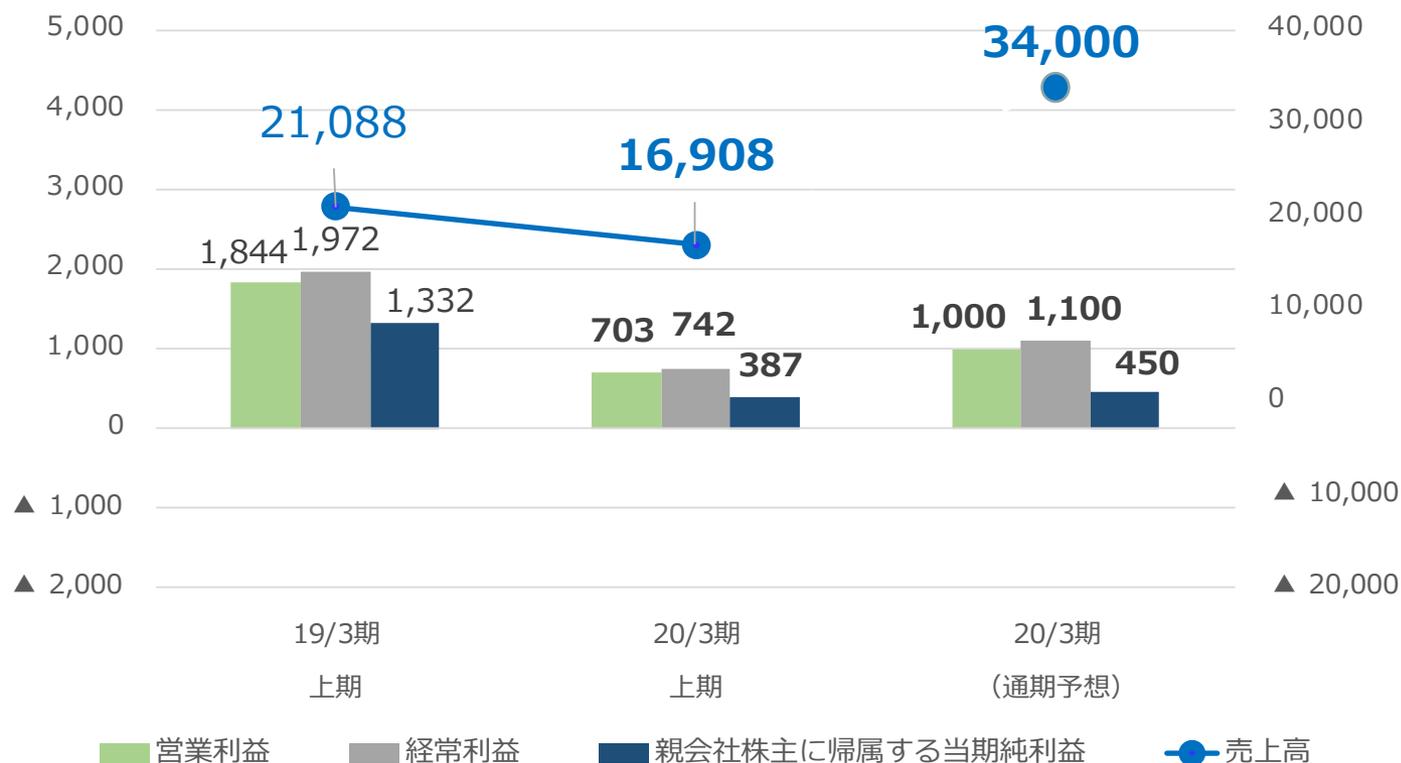
NEW オリジン *NEW* ステージ



2019年11月22日
株式会社オリジン
証券コード：6513

第2四半期累計決算及び通期業績予想

(単位：百万円)



- 20/3期上期は前期伸長したメカトロニクス事業が前年同期比大幅な減収減益
- 20/3期通期業績予想は前回発表の数値から修正なし

第2四半期累計決算

(単位：百万円)

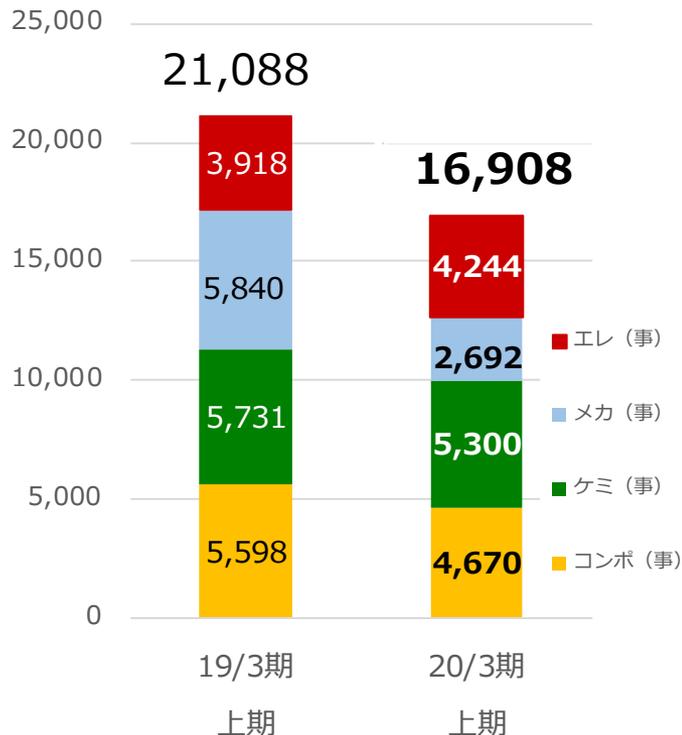
	19/3期 上期	20/3期 上期	前年同期 増減率
売上高	21,088	16,908	▲ 19.8%
営業利益	1,844	703	▲ 61.9%
経常利益	1,972	742	▲ 62.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,322	387	▲ 70.9%
		(単位：円)	
1株当たり四半期純利益	200.87	60.44	

- エレクトロニクス事業の売上高が伸長したものの、他3事業については減収減益となり、全体としても前年同期比大幅な減収減益

セグメント別売上高、セグメント別利益

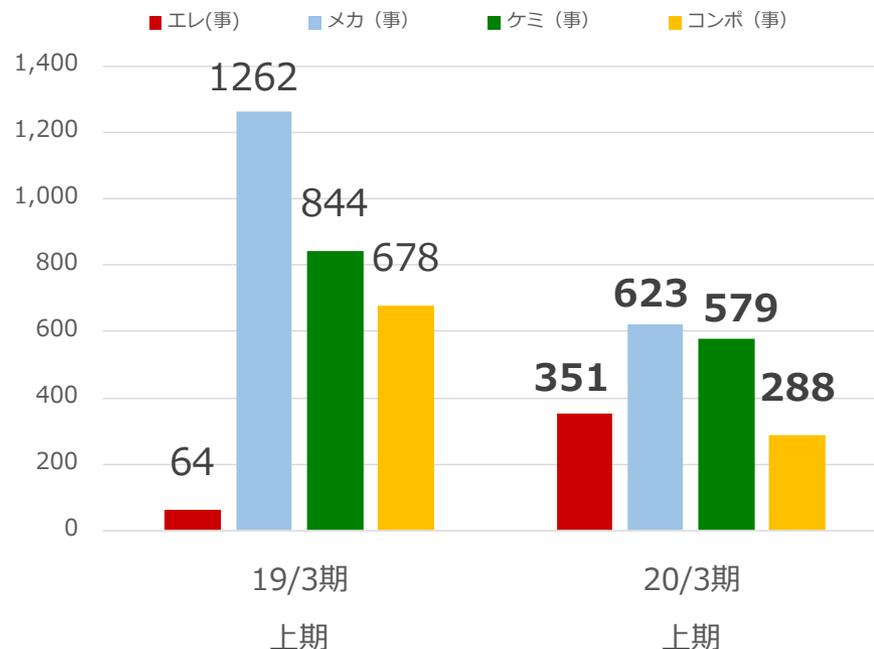
(単位：百万円)

セグメント別売上高



(単位：百万円)

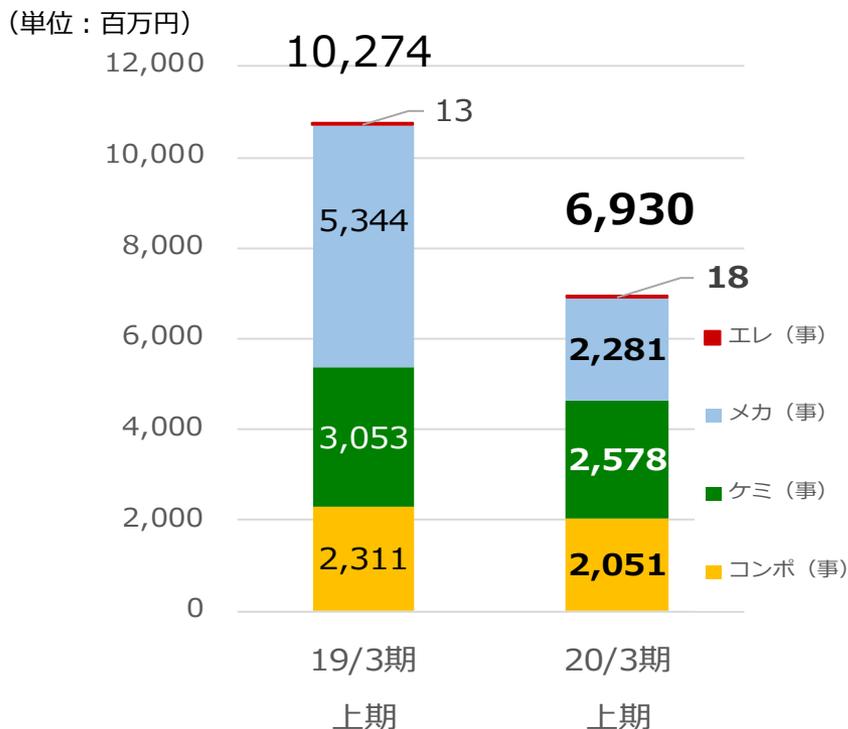
セグメント別利益 (全社費用配賦前)



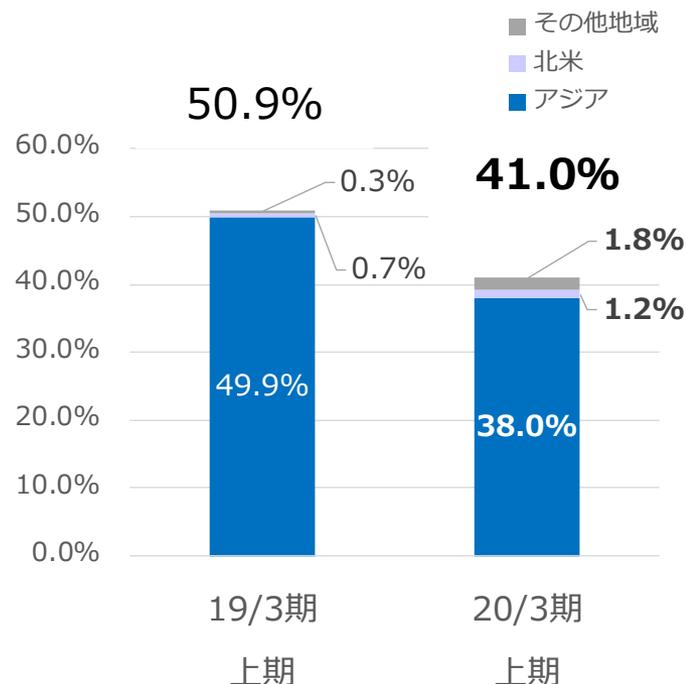
- エレ (事) : 環境対応用の高圧電源が伸長し増収増益
- メカ (事) : MDBが世界的なスマートフォン市場の成熟化による需要鈍化により大幅な減収減益
- ケミ (事) : 主力の自動車分野が売上減、加えて一部海外拠点の低調な売上等が影響し減収減益
- コンポ (事) : 装置産業向けが引き続き市況悪化の影響により低迷し減収減益

海外顧客向け売上高（セグメント別・地域別）

セグメント別



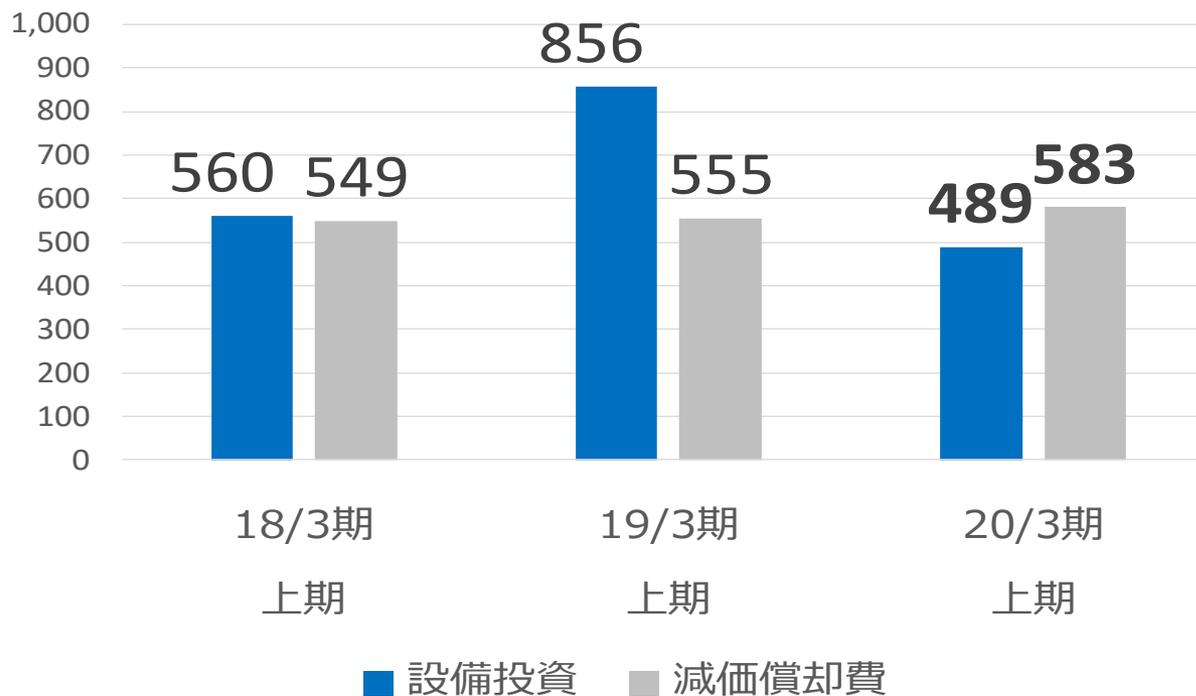
地域別



- 前期海外顧客向け連結売上高を押し上げていたメカトロニクス事業のMDB売上が減少し、海外顧客向け売上高・地域別のアジアが大幅減少

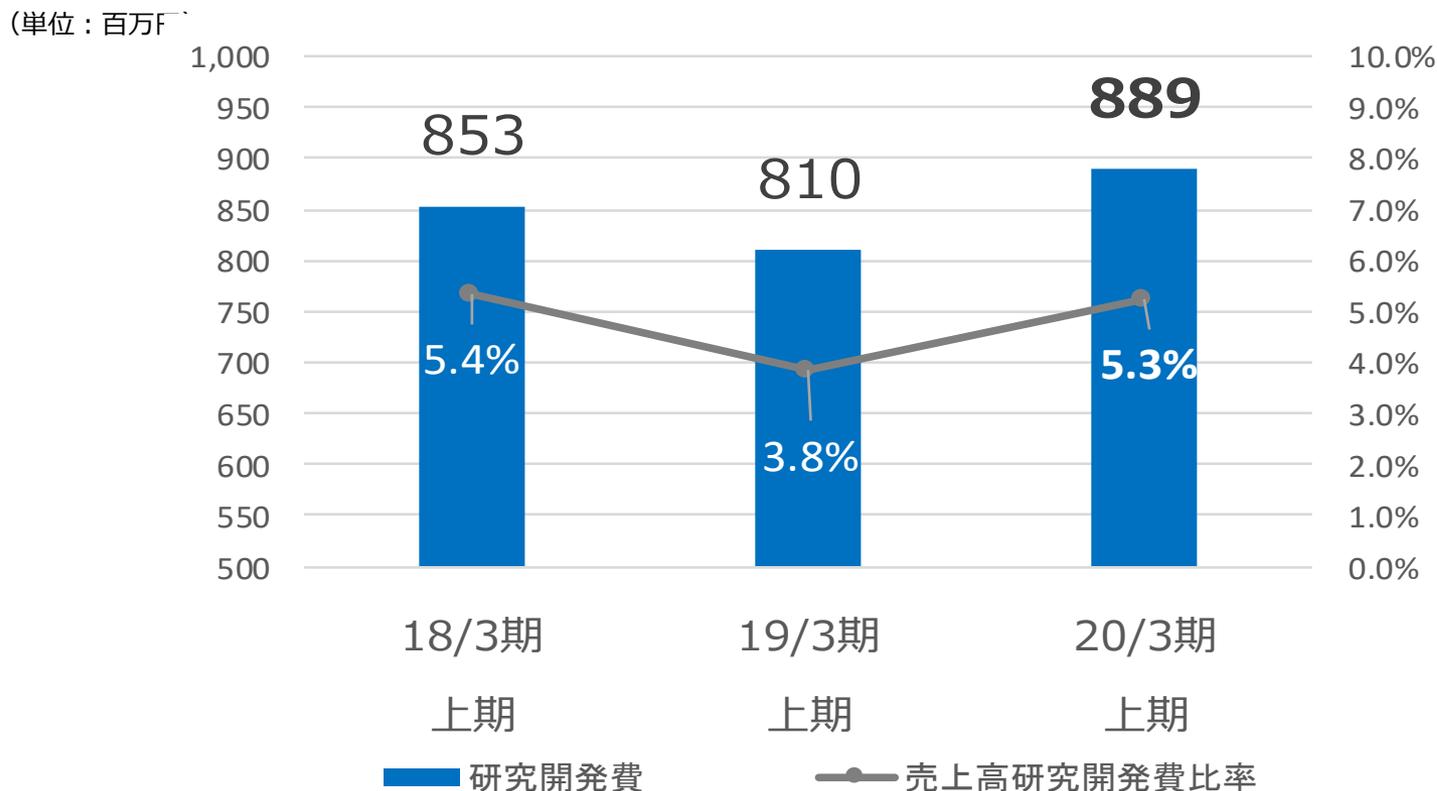
設備投資、減価償却費

(単位：百万円)



- 20/3期上期 主な設備投資
 - ・コンポーネント事業の自動組立機、自動検査装置
 - ・メカトロニクス事業の実験機

研究開発費、売上高研究開発費比率



- 20/3期上期の研究開発費は開発体制の強化に伴う人員増に起因
- 売上高減少に伴い、売上高研究開発費比率は1.5%増加

貸借対照表

(単位：百万円)

	19/3期 期末	20/3期 上期末	前期末 増減額
流動資産合計	27,162	25,927	▲ 1,234
固定資産合計	18,350	18,433	83
資産合計	45,512	44,361	▲ 1,151
流動負債合計	14,151	13,209	▲ 941
固定負債合計	5,951	5,718	▲ 232
負債合計	20,102	18,928	▲ 1,174
純資産合計	25,410	25,433	22
負債純資産合計	45,512	44,361	▲ 1,151
自己資本比率	50.0%	51.6%	1.6%

- 資産減少の主な要因：現金及び預金 6億27百万円減少
仕掛品 5億20百万円減少（主にメカトロニクス事業）
- 負債減少の主な要因：買入債務 9億12百万円減少

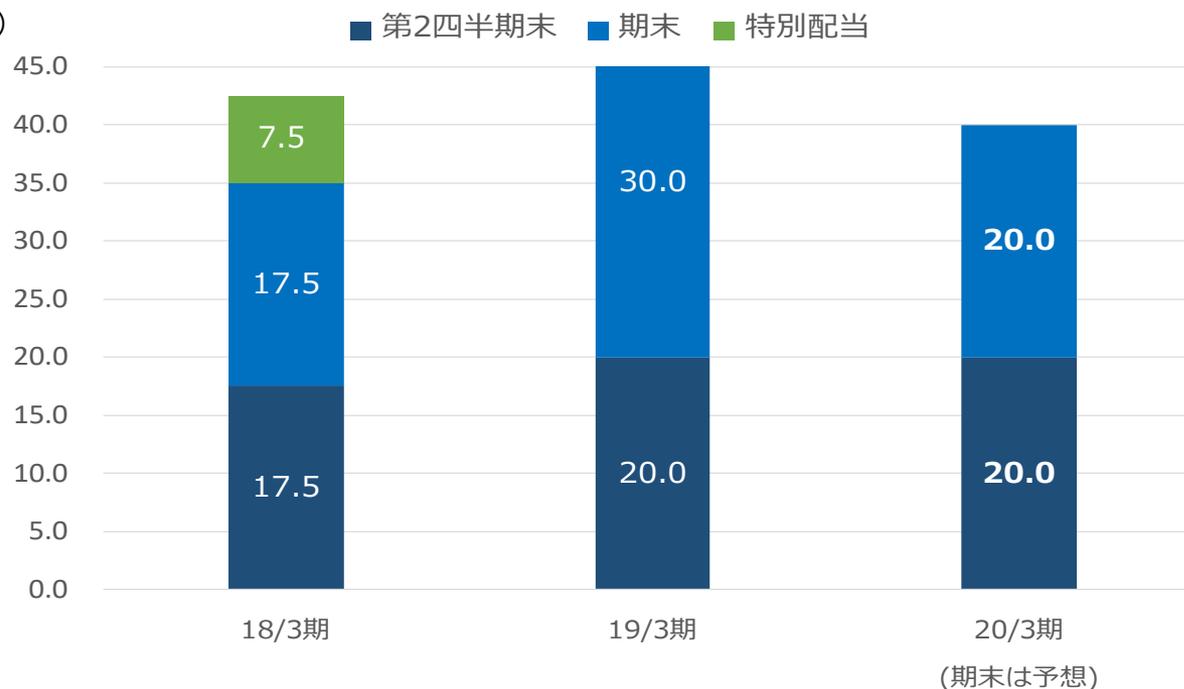
キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	19/3期 上期	20/3期 上期	前年同期 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	93	365	271
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 553	▲ 1,189	▲ 635
財務活動によるキャッシュ・フロー	821	▲ 210	▲ 1,032
現金及び現金同等物の増減額(▲減少)	318	▲ 1,089	▲ 1,408
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,394	5,331	▲ 63

配当の状況

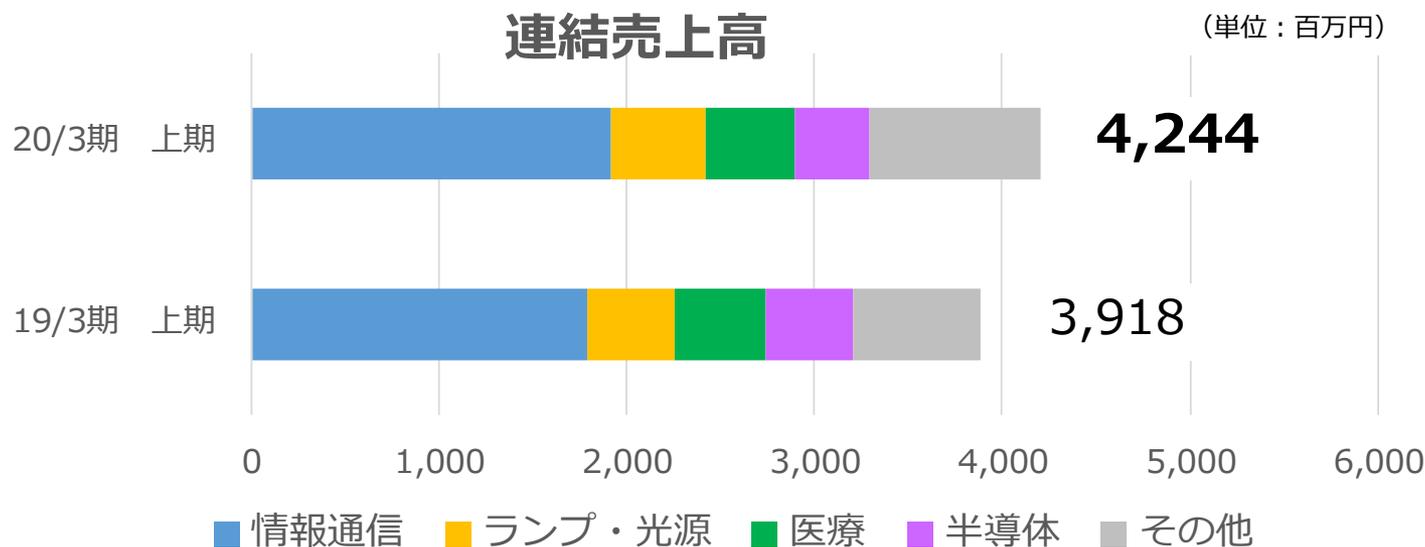
(単位：円)



- 19/3期は業績等を総合的に勘案し、期末配当金1株につき30円
- 20/3期は業績見通し・外部環境の変化などを総合的に勘案し、1株40円を予定
 ※第2四半期末の配当については11月12日開催の取締役会にて1株20円で決議。
 期末の配当金については1株20円を予定。
- 〈自己株式の取得の終了〉2019年2月8日の取締役会決議による取得

2019年2月12日~3月31日	175,400株 (334百万円)
2019年4月1日~4月18日	24,600株 (51百万円)
合計	200,000株 (385百万円)

エレクトロニクス事業詳細



20/3期 上期売上高概況

- 環境対応用の高圧電源が伸長
- 携帯端末向け無線基地局用電源やランプ・光源用の高圧電源が堅調を維持

20/3期 上期重点施策

- 通信事業領域の拡充
- 生産性向上・品質体制の強化

20/3期 下期重点施策

- 高圧事業領域の拡充
 - 医療分野での主要X線用電源の共通化開発
 - 医療分野での海外展開（安定生産・供給）
- 生産性向上・品質体制の強化
- 主要製品コスト低減による競争力強化
- 不採算製品の整理

エレクトロニクス事業

20/3期 上期重点施策トピックス



◆通信事業領域の拡充：無線基地局用電源

既存製品の高機能化の開発に着手（20/3期 下期リリース予定）

製品名

整流装置（DC48V45A）屋外仕様

特長

- ポールや電柱への設置可能な小型電源（電力密度：鉛装置比 約3倍）
- 外装は耐重塩害塗装仕様・放熱は屋外熱交換器を使用
- 安全で環境負荷の少ないニッケル水素電池を使用
- 停電時バックアップ時間は約20分（増設可能）
- 蓄電池寿命予測機能・蓄電池切離し機能

用途

- 移動通信基地局用整流装置
- サーバー・ルータ
- 直流48V入力の負荷装置

更なる機能アップ

- 高効率ユニットを搭載
- 小型化を実現
- 軽量化を実現



旧タイプ



約30% 小型化
約10kg 軽量化



12
新タイプ

エレクトロニクス事業 20/3期 下期重点施策トピックス



◆高圧事業領域の拡充：医療用電源

▶主要X線用電源の共通化

⇒生産性改善とコア技術の開発

▶国内市場から海外市場（アジア圏を中心）を含めたグローバル展開

⇒海外展開（安定生産・供給）への体制づくり

▶幅広い用途への適応製品拡充

⇒デンタル・外科用・消化器系など

ORX-1.0MGII
1kW for Dental X-ray mobile units ※1



ORX-2.0MG
MONO TANK X-RAY GENERATOR
2kW for C-arm X-ray mobile units ※1



ORX-50GS
X-RAY GENERATOR SYSTEM ※2

※1：モノタンク

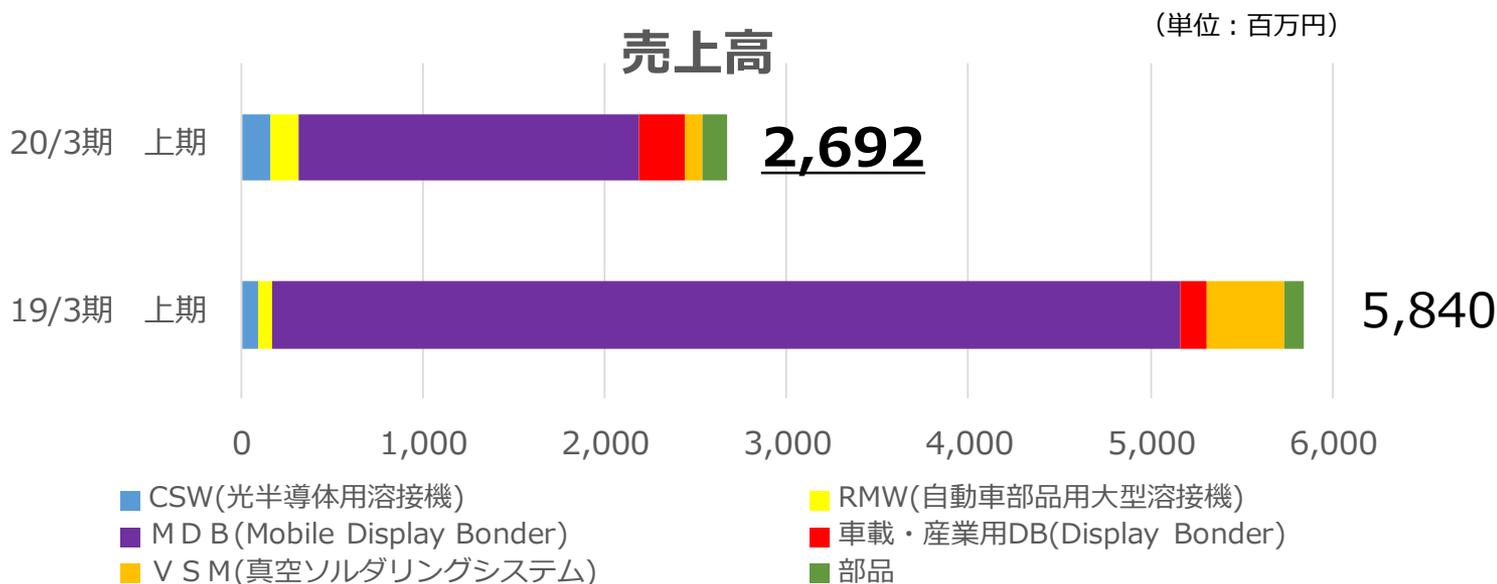
X線を発生させるためのX線管と、
X線管を動作させるための高電圧発生回路を一体化した、
各種医療用診察装置向けのX線発生装置

※2：ジェネレータシステム

X線管を動作させるための高電圧発生回路と、
X線の設定・制御を行うコントローラを一体化した、
各種医療用診察装置向けのX線発生装置

MEMO

メカトロニクス事業詳細



20/3期 上期売上高概況

- MDB：スマホ市場需要鈍化で設備投資伸びず
- DB：産業用ディスプレイ用途で欧州市場参入
- VSM：中国PD市場は競合多く拡販伸びず

20/3期 上期重点施策

- 生産性向上
 - ・ 中国における設備の現地立上体制構築
 - ・ 海外生産機種の大拡販

20/3期 下期重点施策

- 生産性向上
 - ・ VSM：市場別特化機種の大拡販
 - ・ 海外生産の大拡販
- 拡販強化
 - ・ DB：車載ディスプレイ向け（国内/中国）
 - ・ CSW：5G光通信市場向け（中国）
 - ・ VSM：LED/PD/MEMS向け（国内/台湾）
- 新市場の探索及び開拓（将来の主力分野）¹⁵

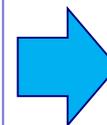
【生産性向上への取組み】

➤ 中国における設備の現地立上体制構築

ローカルエンジニア
及び期間工の
活用体制を確立

+

研修・教育による
品質維持体制を構築



日本からの派遣削減、
現地スタッフ主導による
立上体制を構築

➤ 海外生産機種種の拡大

- 117期：初めての海外生産（中国）を開始 = DB（車載向けディスプレイ貼合せ装置）半自動機
- 118期：DB全自動機の海外生産に着手
- 119期：海外生産（中国・台湾）機種種を拡大 = VSM（真空ソルダー）、CSW（光通信用溶接機）
※海外生産は機種の一部装置及び主要ユニットを含みます。

更なるコスト競争力の

強化を図ってまいります！



2機種種の海外生産を開始

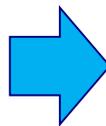
【生産性向上への取組み】

➤ VSM市場別機能特化機種種の構築

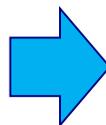
汎用装置は
コスト削減に限界あり



VSM汎用装置



市場別(LED/パワーデバイス/MEMS)に
必要な機能を維持/追加、不要な機能を省く



市場別機能
特化装置へ

⇒120期リリース予定

**付加価値を上げ
コストメリットを引き出す！**

【DB拡販への取組み】

➤ ディスプレイ市場の流れ

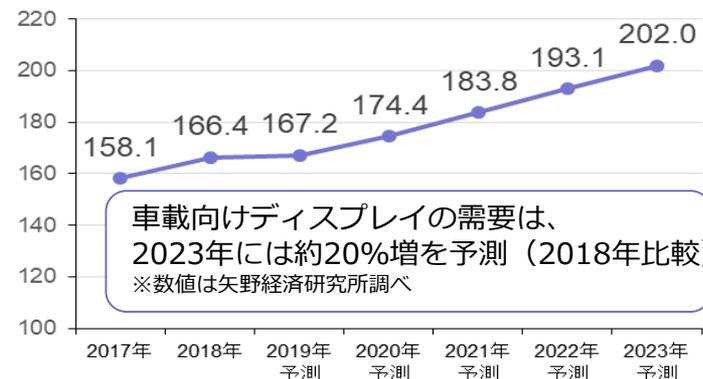
- ・車載向け及び曲面（カーブ）基盤がトレンド
※ S I D（国際情報ディスプレイ学会=Society for Information Display）による。
- ・生産設備の自動化/インライン化
（量産化、人件費高騰、高精度化、品質重視）

➤ 下期取組み

- ・国内/中国メーカー向け引合増加（売上120期予定）
- ・プロセスサポートによる既存顧客次期引合い案件への訴求
- ・客先要求（仕様・プロセス他）の実現化による新規顧客の取込み

（単位：百万枚）

車載向けディスプレイ需要



車載向けディスプレイの需要は、
2023年には約20%増を予測（2018年比較）
※数値は矢野経済研究所調べ

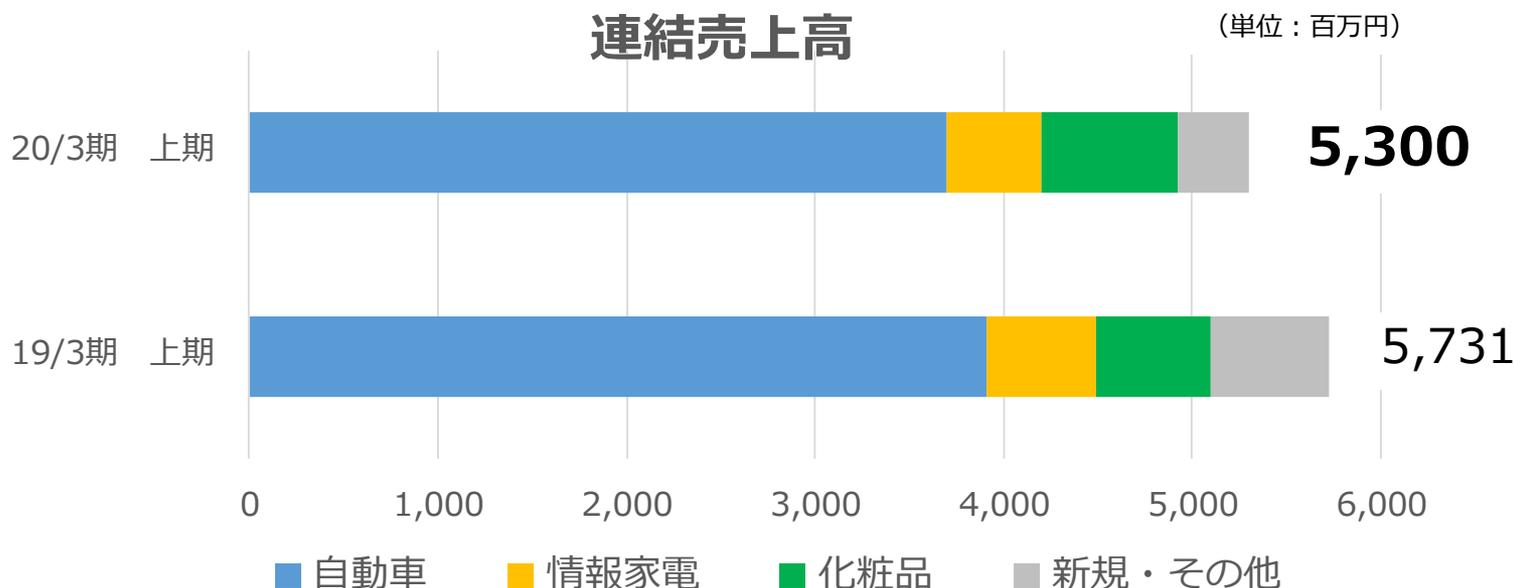
注1. メーカー出荷数量ベース、純正品および市販品を含む

注2. 2019年以降は予測値

注3. 自動車に使用されるCID (Center Information Display)、Cluster(Instrument Cluster)、RSE(Rear Seat Entertainment)、HUD(Head-up Display)、Mirror(Rear view Mirror/Side Mirror)向けのLCD-TFT、AM-OLEDを対象とした

MEMO

ケミトロニクス事業詳細



20/3期 上期売上高概況

- 自動車分野売上減
- 一部海外拠点での売上低調
- 化粧品分野堅調

20/3期 上期重点施策

- 高機能塗料拡販強化：7月、9月展示会出展
- エリア・パートナー戦略：関西地区人員再編

20/3期 下期重点施策

- 高機能塗料拡販強化
 - 展示会で接触した企業へのアフターフォロー
 - ・環境関連
 - ・EV車関連
 - ・インフラ関連
 - ・通信関連
- 西日本地区拡販力強化
- ASEAN地区情報調査

ケミトロニクス事業 20/3期 上期重点施策トピックス



➤ 5G/IoT通信展 出展

7月17日～19日 於：東京ビッグサイト 青海展示棟

➤ エヌプラス ～新たな価値をプラスする素材・技術の展示会～ 出展

9月11日～13日 於：東京ビッグサイト 青海展示棟

<主な展示製品>

- ・ 放熱塗料
- ・ 遮熱塗料
- ・ CFRP用塗料
- ・ 高耐候UV塗料
- ・ 防錆塗料
- ・ 無反射塗料
- ・ 潤滑塗料
- ・ ノンスリップ塗料

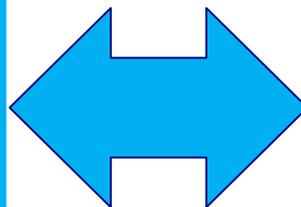
等



高機能塗料の拡販強化

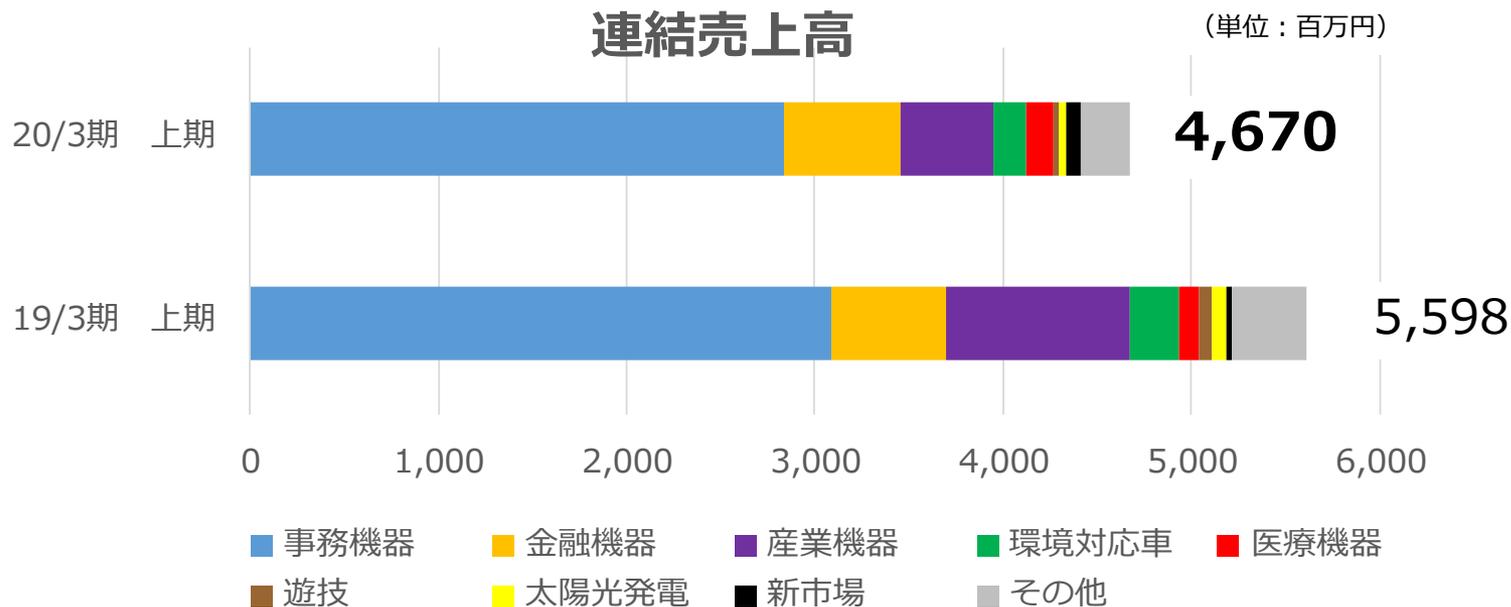
展示会来場社へアフターフォロー訪問し、各種機能性塗料を拡販

放熱塗料
遮熱塗料
CFRP用塗料
高耐候UV塗料
防錆塗料
無反射塗料
潤滑塗料
ノンスリップ塗料
etc



交通インフラ関連
通信インフラ関連
電力インフラ関連
電力・電源機器関連
光学機器関連
建材・住設関連
車載機器・ADAS関連
etc

MEMO



20/3期 上期売上高概況

- 装置産業向け市況悪化の影響を受け低迷

20/3期 上期重点施策

- 製品群の拡充
- 新市場の開拓
- 生産拠点の再編
- 品質管理体制の強化

20/3期 下期重点施策

- 車載向け新製品の量産化に向けた評価及び品質規格に適合する体制構築
- 住設関係への深耕
- 15kV超高速ダイオードの量産体制確立
- 世界市場への拡販活動強化
- 海外生産拠点を活用した原価低減活動
- 製品ラインナップの充実
- 新製品開発の推進

◆精密機構部品

- 車載向け新製品『小型高トルクリミッタ』量産化に向けた評価検証開始

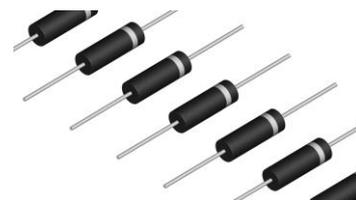
課題：自動車品質規格に適する体制構築



- 大量生産品の自動機化による生産体制構築完了

◆半導体デバイス

- 国内外の医療用X線・工業用X線機器用として、商品化要望の強かった高耐圧（15kV）超高速ダイオードの開発完了（サンプル提供一部開始）



◆精密機構部品

- 車載向け新製品の量産化に向けた評価継続と品質体制の構築
⇒同業界向け用途開拓と適合製品開発の推進
- 機械要素技術展（大阪・東京）、Productronica2019（ドイツ）へ出展
⇒欧州、米国、中国市場への拡販活動を強化

◆半導体デバイス

- 新製品15kV超高速ダイオードの量産体制確立及び拡販強化
⇒欧州、米国、中国、日本の医療機器メーカーターゲット
- シリコンサージクランプ製品拡充及び拡販強化
⇒パーキングロック板システムやエレベーター等

MEMO

- ◇当資料は株式会社オリジンが作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- ◇当資料に掲載しております情報は、2020年3月期第2四半期連結決算の経営成績や財務内容等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる保証を行うものではありません。
- ◇業績予想等は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在していますので、実際の業績はこれらの予想数値とは異なる場合があります。
- ◇当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や債券等の保有を推奨することを目的に作成したものではありません。

————— **プレス・アナリスト・機関投資家様 個別取材窓口** —————

株式会社オリジン

経営企画部

TEL:048-755-9422